

## 三島市の小中学校におけるプログラミング教育、部活動指導員の配置

アナ： 「市長が語る 2019 三島」第 12 回の今日は、「三島市の小中学校における、プログラミング教育、部活動指導員の配置」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお祈いします。

市長： よろしくお祈いします。

アナ： 新しい学習指導要領では、プログラミング教育が小学校で必修化となるそうですね。このプログラミング教育とは何でしょうか。

市長： はい。プログラミング教育とは、「コンピュータに意図した処理を行うように指示することができる」ということを子供たちに体験させながら、将来どのような職業に就くとしても、時代を超えて普遍的に求められる力としての「プログラミング的思考」などを育成するものです。

アナ： 「プログラミング的思考を育成する」ということですが、これはどのようなことですか。

市長： 「プログラミング的思考」とは、自分がイメージする一連の活動を実現するために、どのような動きの組み合わせが必要であるかを考え、一つ一つの動きに対応した記号の組み合わせをどのように改善していけば、よりイメージした活動に近づくのかということ、論理的に考えていく力を指します。

プログラミング的思考の例を挙げますと、自分のイメージ通りにロボットを動かすために、友達と話し合いながらプログラミングを何度もやり直し、ロボットの動きを制御していく活動です。

子供たちのプログラミング的思考を育成するということは、簡単に言えば、論理的に物事を組み立てる能力や記号を使ったわかりやすい説明をする能力、最適な答えを導くまであきらめずに試行錯誤する能力を育てることといえます。

アナ： 三島市の小学校では、準備期間である令和元年度、予定している取組にはどのようなものがあるのでしょうか。

市長： 三島市では、平成30年度から、企業と連携し、徳倉小学校をモデル校としてプログラミング教育に取り組んでお祈いして、総合的な学習の時間で、仕事に役立つロボットを製作する活動を実施しています。昨年度、わたくしも、徳倉小学校の公開授業を参観しましたが、子供たちは、グループごと、市内にお住まいのボランティアの指導補助員の方とともに、仕事に役立つロボットについて、試行錯誤しながら製作していました。未来を担う子供たちには、これからも質の高い体験をしてもらいたいと考えています。

アナ： 次に、今年度から、中学校に部活動指導員が配置されると伺いましたが、この部活動指導員について教えてください。

市長： はい。三島市ではこれまでも、中学校の部活動の技術指導向上を目的として、毎年約40名の方に、外部指導者として指導していただいております。さらに、令和元年度からは、部活動の顧問に代わって、単独指導や引率ができる、部活動指導員をあらたに配置することにいたしました。この取組により、部活動における技術指導の充実、そして、先生方の負担軽減にもつながるものと考えています。初年度となる今年は、2名の方に部活動指導員をお願いしますが、今後も充実を図る中で、さらに、質の高い部活動を目指していきたいと考えています。

アナ： 部活動における子供たちの活躍も楽しみですね。  
豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。